**校長　青木　浩子**

**平成31年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| 地域の様々な人々と連携・協働し、夢の実現をめざして本気で挑戦し、自ら考え行動できる人材を育てる学校をめざす。  　　　　１　確かな学力を身につけ、自らの力で進路実現できる生徒を育成する。  　　　　２　規範意識・人権意識を育み、社会的基礎力（踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を身につけた人間を育成する。  　　　　３　英語教育、国際教育のさらなる充実を図り、グローバル化の進む２１世紀を多様な人々と共創できる人間を育成する。 |

２　中期的目標

|  |
| --- |
| １　確かな学力を身につけ、自らの力で進路実現できる生徒を育成する。  　（１）「わかる授業、充実した授業」をめざして授業改善に取り組み、生徒の学習意欲の向上、学習習慣の確立を図る。  　　　ア　ICT機器を効果的に活用し、アクティブラーニングなど指導法の工夫をすることにより、「主体的・対話的で深い学び」となる授業をめざす。  イ　教員相互の授業見学等を日常的に実施し情報交換を行う中で、授業のコツやノウハウを共有し、授業改善・授業力の向上に取り組む。  また地域の中学校と連携し、相互授業見学を推進する。  　　※授業アンケートにおける授業満足度について80%以上を維持する。  　（２）学校一体となって、「学習する体制」を整え、生徒一人ひとりの学習支援、進路実現の支援を行う。  　　　ア ３年間を見通し、１年次から計画的に｢学習会｣を開催し、生徒のモチベーションの向上を図る。  　　　イ 補習・講習を充実させ、生徒一人ひとりの進路支援体制のさらなる充実、学習支援体制の充実を図る。  　　※生徒の進路達成満足度（H30年度97%）について90%以上を維持する。  ２　安全安心な学びの環境を整えるとともに、規範意識や人権意識を育み、社会的基礎力（踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を身につけた人間を育成する。  　（１）生徒の人間的・社会的自立を支援するとともに規範意識を身につける指導体制を確立する。  　　　ア　学年、生指部の連携を強化し、学校全体で同じ基準のぶれない生徒指導・支援体制の充実を図り、遅刻指導、挨拶や礼儀の指導に全教職員が継続して取り組む。  　　　イ　クラス活動、生徒会活動、学校行事、部活動等を通して、社会的基礎力を育成する。特に行事の活性化に取組み、学校生活に対する充実感を高める。  また部活動の加入率を上げるとともに退部率を減少させる。  　　　　　※保護者向け学校教育自己診断における生徒指導体制への肯定率（H30 年度68%）を2021年度には75%以上とする。  　　　　　※各行事に対するアンケート結果による満足度（H30年度87 % ）について85%以上を維持する。  　（２）生徒一人ひとりの支援体制・教育相談体制について、保護者及び専門関係機関と連携しながら充実させる。  　　　　　※生徒向け学校教育自己診断における教育相談体制・支援体制の肯定率（H30年度63%）を2021年度には70%以上とする。  　（３）情報ネット社会における人権侵害やいじめなど今日的課題について学び、人権意識、実践力を高める教育活動をさらに充実させる。  ※生徒向け学校教育自己診断における人権教育に関する肯定率（H30年度77%）を2021年度には80％以上とする。  　（４）自然災害等を含め緊急事態発生時に迅速かつ適切な対応ができる連絡体制の徹底を図る。  ※生徒向け学校教育自己診断における、学校安全に関する項目の肯定率（H30年度66%）を2021年度には75%以上とする。  ３　英語教育、国際教育のさらなる充実を図り、グローバル化の進む２１世紀を多様な人々と共創できる人間を育成する。  　（１）英語コミュニケーション能力のさらなる向上に取り組むとともに、論理的思考力・課題解決能力・探究力の育成を図る。  　　　ア　少人数展開、ICT機器等の活用、アクティブラーニングの実施等により、一人ひとりが主体的・意欲的に取り組む授業を実践しながら４技能をバランスよ  く伸ばす。また、英語の学力調査も効果的に活用する。  イ　姉妹校交流の充実、短期語学研修、イングリッシュ・キャンプ、これらを充実・発展させ、さまざまな国々との交流等を通じて実践的英語力をさらに向上  させる。  　　　　　※英語に関連する科目の授業アンケートにおける授業満足度（H30年度80%）について80%以上を維持する。  　（２）国際教育、ＥＳＤ（持続発展教育）に関する行事の充実・発展に取り組み、ユネスコスクールとして国際教育のレベルアップを図る。  　　　　　※生徒向け学校教育自己診断において、国際教育（ユネスコ活動を含む）に対する肯定率（H30年度87%）について85％以上を維持する。  ４　地域・保護者とつながる魅力ある学校づくりと情報発信をさらに推進する。  （１）中高連携、高大連携、地域連携等を密にし、地域に根ざした学校づくりを推進する。  （２）ホームページ・携帯連絡網等を通じて、広報活動、保護者への連絡・情報提供をより充実させる。  　　　　　※保護者向け学校教育自己診断における保護者への連絡・情報提供の満足度（H30年度63%）を2021年度には70％以上とする。  ５　校内運営体制の改善と人材の育成を推進する。   1. 業務の精選と簡素化を図ると同時に、教職員の意識を高め、時間外業務の減少をめざす。   （２）「育てたい生徒像」を念頭に、本校の将来を見据えながら、教員を育成するシステムの構築を図る。  　　　※時間外業務の年間時数（一人あたり平均）について、2021年度には２割減（H30年度比）とする。 |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［平成31年実施分］ | 学校運営協議会からの意見 |
|  |  |

３　本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的  目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
| １　確かな学力を身につけ、  自らの力で進路実現できる生徒を育成 | (1) 生徒の学習意欲  の向上、学習習慣の確  立を図る。  (2)生徒一人ひとりの学習支援、進路実現の支援を行う。 | (1)アイ  ・「授業見学週間」を設け、教科を越えて情報交換を密に行ないながら、「授業のあり方研究会」を中心に授業の質を向上させることをめざす。  ・中学校との相互授業見学システムを継続し（本年度は中学校の授業を観察）、中高連携を促進すると同時に高校における授業の在り方を考える。  (2) 学校全体で「学習する体制づくり」に取り組む。  ア １年生から進学希望生徒対象の｢学習会｣を計画的に実施する。  イ　講習・補習を組織的に計画・実施する。 | (1)アイ  ・授業アンケートの満足度を80％以上を維持す  る。　　　　　　　　　　　　 　(H30 80%)  ・生徒のICT活用授業の肯定率90%をめざす。  (H30 88%)  ・積極的に授業見学・情報交換に参加する教員数を75%以上とする。　　　　　 (H30 73%）  (2)生徒向け学校教育自己診断における「勉強  会・講習・補習等」についての肯定率を75％以上とする。　　　　　　　　 （Ｈ30 71%） |  |
| ２　安全安心な学びの環境整備、規範意識・  人権意識・社会的基礎力の醸成 | (1)規範意識を身につける指導体制を確立する。  (2)生徒一人ひとりの支援体制を確立する。  (4) 緊急事態発生時の連絡体制の徹底を図る。 | (1)  ア・学年間・生指部の連携を強化し、遅刻指導、身だしなみの指導等、学校全体で同じ基準で生徒に対応する体制を整える。  ・引き続き遅刻指導を重点的に取り組み、遅刻件数を減少させる。  イ・体育祭・文化祭等各行事のマニュアル化およびさらなる活性化を図る。  ・新入生の部活動加入率を上げる工夫を凝らす。  (2)生徒一人ひとりの支援体制、教育相談体制について、SCに加えSSW等外部関係機関と連携しながら、充実させる。  (4) 緊急時の教職員の連絡体制を見直すとともに、生徒への  　防災教育を充実させる。 | (1)  ア・生徒向け学校教育自己診断における生徒指導・支援体制の肯定率を50％以上とする。  (H30 45%)  ・年間の遅刻件数を昨年度比10％減とする。  （H30　2,264件）  イ・行事の満足度を85%以上とする。  （H30 体育祭95％　文化祭 81%）  ・新入生部活動加入率75%以上とする。  　 （H30 70%）  (2)生徒向け学校教育自己診断における教育  相談体制・支援体制の肯定率を75％以上  とする。 （H30 71%）  (4)生徒向け自己診断における学校安全に関する項目の肯定率を69%以上とする。（H30 66%） |  |
| ３　英語教育、国際教育のさらなる充実 | (1)英語コミュニケーション能力のさらなる向上に取り組む。  (2)国際教育、ＥＳＤの充実・発展に取り組む。 | (1)  ア・少人数授業の利点を活かし、生徒が主体的・意欲的に取り組む授業を展開することで、４技能をバランスよく伸ばす。  ・各種英語学力調査を継続活用し４技能向上の指標とする。  イ 姉妹校交流をはじめとする国際交流行事、短期語学研修、イングリッシュ・キャンプ等を通じて実践的英語力をさらに向上させる。  (2)校内における国際教育、ＥＳＤに関する行事（ユネスコ  スクールの取組みを含む）を企画・運営する体制を整え、教職員、生徒全体の国際教育のレベルアップを図る。 | (1)  ア・授業アンケート満足度80%以上を維持する。  ・英語学力調査で、全国平均を上回ることをめざす。  イ海外語学研修、イングリッシュ・キャンプ  等各行事の参加者の満足度を90%以上を維持する。 （H30 語学研修100%／ｷｬﾝﾌﾟ91%）  (2)生徒向け学校教育自己診断において本校国際教育（ユネスコ活動を含む）に対する肯定率85%以上を維持する。 （H30 87%） |  |
| ４　地域・保護者とつながる魅力　　　　　　 ある学校づくりと情報発信 | (1)中高連携、高大連携、地域連携等を通じて地域に根ざした学校づくりを推進する。  (2)広報活動、保護者への連絡・情報提供をより充実させる。 | (1) 学校、学年また各教科、クラブ単位等様々な形で、市役所、保育所、小中学校・福祉施設等と連携する取組みを積極的に企画実施する。  (2) ・学校ホームページを魅力あるものに刷新する。  ・また、保護者携帯へのメール送信に関して、内容を充実させるとともに、タイムリーな発信を心掛ける。  ・広報活動について、学校全体で取り組む体制を確立する 。 | (1)参加生徒の地域連携、地域貢献の満足度について90％以上を維持する。 (H30 93%)  (2)保護者向け学校教育自己診断における広  報に関する満足度を70％以上とする。  (H30 63%) |  |
| ５　校内運営体制の  改善と人材の育成 | (1)業務の精選と簡素化、時間外業務の減少をめざす。  (2)教員を育成するシステムの構築を図る。 | (1)教職員の負担軽減を考慮しながら、分掌の業務を見直す。  　また、ICTを活用し、校務の効率化を図る。  (2)首席・指導教諭が中心となって、教員の実践的な「共育研修」及び「ＡＬ型教員全体研修会」を定期的に実施し、校内の意思形成を図る。 | (1)時間外業務の年間時数（一人あたり平均）について、前年度比減をめざす。  (2)教員向け学校教育自己診断において、教員研修に関する肯定率について70%をめざす。 |  |